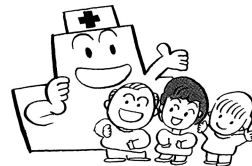


市民の命の砦

舞鶴赤十字病院

を守りましょう



公立病院の再編統合へ 厚労省が病院名公表

舞鶴赤十字病院（舞鶴日赤）は、66年前に住民の強い要望と支援とともに、診療と府北部の災害救援の拠点として設立された病院です。隣接する舞鶴市民病院と共同し、急性期からリハビリまでの医療を地域住民に提供している無くてはならない病院です。



しかし厚労省は、9月26日、京都府内の京丹波町病院、福知山市民病院大江分院、宇多野病院、舞鶴赤十字病院を含む、全国424の公立・公的病院に「再検証」の必要があるとして、2020年9月までに統廃合・再編・ベッド縮小などの計画を具体化することを要求しました。

地域の実情を踏まえず、公表を一方的に

政府・厚労省は、これまでも医療費を削減するために、病床削減を図ろうとしましたが、各地の「地域医療を守れ」の反対運動の高まりや、実態を無視した病床削減の押し付けに少なくない自治体や医療機関が反対し、政府の思惑通りに進まないことから、今回、強硬策として名前の公表を一方的に行ったものです。

住民の意思、病院と地域の歴史を無視して進める国主導の一方的な病床削減は、憲法25条がうたう健康で文化的に生きる権利、

「ふるさと」で生きる権利を否定するものです。



舞鶴市と京都府は、 政府と厚労省に抗議し、白紙撤回を求めよ

10月4日、再編・統合が必要との公的病院名の公表を受け、総務・厚労両省は、全国知事会など地方3団体との協議の場の初会合を開催。地方3団体の参加者からは、「地域の医療機関が無くなったら命や健康は誰が守るのか」「むちゃくちゃな乱暴なやり方」「データに信憑性がない」などと批判が続出しました。

京都府と舞鶴市は、政府と厚労省に抗議し、白紙撤回を強く求めるべきです。

まだ何も決まっていません。“病院守れ”の世論を広げるため 「病院の拡充を求める署名」にご協力ください。



全国で、政府・厚生労働省の一方的な進め方に抗議の声が強まっています。病院を守るためには、町内はもちろん、京都府内の世論が重要です。京丹波町病院を守るために「病院の拡充を求める署名」にご協力ください。

政府・厚労省の「統合・再編、縮小」
押し付けを白紙撤回し、
病院の充実を

京都社保協（京都社会保障推進協議会）

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30-2ラポール京都6階 電話：075-801-2526